

タイトル	駄菓子屋開店	駄菓子屋 作りませんか？（第1期・第5回）	子供向けGWイベント	話そう！つながろう！みんなの居場所フォーラムでの登壇	駄菓子屋 作りませんか？（第1期・第6回）	駄菓子屋 作りませんか？（第2期・第1回）	フットサル大会	駄菓子屋 作りませんか？（第2期・第2回）	駄菓子屋 作りませんか？（第2期・第3回）
日時	2024年4月8日(月)	2024年4月28日(日) 10：00-13：00	2024年5月3日(金・祝) 10：00-17：30	2024年6月1日(土)	2024年6月9日(日) 13：00-15：00	2024年6月21日(金)16：30～17：30	2024年7月6日(土)	2024年7月12日(金)16：30～17：30	2024年7月19日(金)17:00～17：30
概要	【駄菓子屋について】かわちラボ内に駄菓子屋を運営することで、地域のこどもたちにとって親しみやすい場所をめざす。また、子どもたちの主体的な参加の機会とするため、子どもたちが店主として運営していく。 公募で集まった店主（子どもたち）が、駄菓子屋の開店記念にテーブルカットを行った。開店初日から地域の子どもたちがたくさん買い物に来てくれた。	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 第一期メンバーは、公募で集まった小学生～高校生7名で、昨年度の1月からワークショップで店名や商品の仕入れなどを行っている。	祝日は閉館しているが、ゴールデンウィーク期間中である5月3日に臨時開館することで、普段通っていない子供たちにも広く利用してもらおう。	河内長野市役所の児童福祉部局が主催するフォーラムに「子どもの居場所」事業者として登壇	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 第一期メンバーは、公募で集まった小学生～高校生7名で、昨年度の1月からワークショップで店名や商品の仕入れなどを行っている。	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 第二期メンバーは、放課後フリースペースに来ている地域の子どもたちから募集して集まった小学生～高校生4名。	スタッフと子どもたちの交流を深めるため、フットサル大会を実施した。	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 第二期メンバーは、放課後フリースペースに来ている地域の子どもたちから募集して集まった小学生～高校生4名。	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 第二期メンバーは、放課後フリースペースに来ている地域の子どもたちから募集して集まった小学生～高校生4名。
場所	かわちラボ	かわちラボ	かわちラボ	河内長野市立市民交流センター	かわちラボ	かわちラボ	てんとう虫パーク河内長野店（スポーツ複合施設）	かわちラボ	かわちラボ
参加者	駄菓子屋店主の子どもたち	駄菓子屋に興味のある小中高校生	駄菓子屋イベント参加者など	【登壇者】大阪市および河内長野市内で活動している団体など 【参加者】子どもの居場所に興味のある方	駄菓子屋に興味のある小中高校生	駄菓子屋に興味のある小学生～高校生	一般公募で集まった幼児～中学生	駄菓子屋に興味のある小高校生	駄菓子屋に興味のある小学生
実施内容	店主によるテーブルカット。近隣の商店などに駄菓子屋の開店を告知も行った。	店の運営、大口発注への対応（駄菓子ラッピング作業）	午前中は宿題を持ち寄って勉強会。午後からは駄菓子屋を臨時開店し、宝探し大会も開催。	事例紹介、意見交換、交流会	これまでの自分たちの活動や、地域の方々との関わりなどを振り返った。第一期メンバーのまとめとして、何をするかアイデアを出し合った。	2期メンバーでの1回目。交流しメンバー同士の絆づくり。 パワーポイントを用いて店主のお仕事についてのイメージづくりと、どんなお店がいいのか考えてもらい、自分の意見を出す機会に。	コートを借りて、フットサル大会を実施した。	アイスブレイク、駄菓子屋名前決め、看板のイメージづくり	駄菓子屋の仕入れ（ネット購入）当日、トラブルがあり、イベントとしては実施できなかったが、参加してくれた子どもの意向を聞きながら、ネット注文により仕入れ作業を行った。他のメンバーについても、後日仕入れのみ個別で行った。
自己評価	近隣住民や地域の子どもたちに知っていただける機会となった。	回を重ねるごとに、子どもたちの自主性が引き出されている。		かわちラボの取り組みを広く知っていただく機会となった。また、ほかの団体との交流も図ることができた。	お店に関わってくださった皆さんへの感謝を伝えるために、①お客さんには「割引券を作って渡す」②お世話になった地域みなさんには「おすすめ駄菓子の詰め合わせ＆メッセージカードを作って渡す」③次期店長には「アドバイスを伝える」というアイデアが出た。約半年が経ち、年齢差を超え、お互いの意見を尊重しあえる良い関係が構築出来ている。	個別に声をかけたメンバーだったが、忘れていたなどで不参加あり。参加した2人は初対面ではあったが、駄菓子屋王に扮したスタッフを中心にととてもいい雰囲気楽しくイベントを実施できた。アイデアもたくさん出てきていた。	運動を通して楽しみながら交流を深めることが出来た。	3名の参加。スライド見ながらそれぞれが意見を出し合えた。店名も、新しい意見も出たが、今の名前が一番いいと一致し、現状維持となった。好きな駄菓子アンケートを取り、それを看板に活かしたいとアンケートを作りフリースペースに来ている子に実施するなど積極的な姿があって楽しくできた。	当初予定していたワークショップ（お金の話など）はできなかったが、仕入れ作業を楽しんすることが出来た。
反省点				特になし	特になし	特になし	事前告知があまりできず、参加者が少なかった（幼児1名、小学生2名、中学生2名）。	参加者が少ないことは気になる	放課後フリースペースを実施しながらの駄菓子イベントは、人員配置や環境設定などの面で安定したイベント実施が難しい。
記録写真									

タイトル	駄菓子屋 作りませんか？（第1期・第7回）	駄菓子屋 作りませんか？（第2期・第1回）	支援者BAR	パイブレード大会	夏祭り	保育BAR	教育BAR	駄菓子屋 作りませんか？（第3期・第1回）	駄菓子屋 作りませんか？（第3期・第2回）	福祉BAR	教育BAR	駄菓子屋 作りませんか？（第3期・第3回）	駄菓子屋 作りませんか？（第3期・第4回）
日時	2024年7月21日(日) 13：00-15：00	2024年8月3日(金) 10：00～12：00	2024年8月17日(土)	2024年8月18日(日)	2024年8月23日(金)	2024年10月19日(土)	2024年10月31日(木)	2024年11月6日(水) 11：00～12：00	2024年11月8日(金)11：00～12：00	2025年11月9日(土)	2024年11月22日(金)	2024年11月25日(金)11：00～12：00	2024年11月27日(水)10：00～15:00
概要	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 第一期メンバーは、公募で集まった小学生～高校生7名で、昨年度の1月からワークショップで店名や商品の仕入れなどを行っている。	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 二期生は、放課後フリースペースに来ている子どもたちの中から希望者を募った。小学生3名、高校生1名。	別紙ニュースレター参照	フリースクール生が企画・運営に携ったパイブレード大会。参加者を一般公募して実施。	地域に開かれた夏祭りとして、射的・当てもの・スーパーボールすくい・子どもたちによるスマブラ（テレビゲーム）大会などを実施。 なお、LFAによる支援金事業として実施。	別紙ニュースレター参照	別紙ニュースレター参照	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 第3期メンバーは、フリースクール生。小学2年生～5年生までの6名。	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 第3期メンバーは、フリースクール生。小学2年生～5年生までの6名。	別紙ニュースレター参照	別紙ニュースレター参照	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 第3期メンバーは、フリースクール生。小学2年生～5年生までの6名。	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 第3期メンバーは、フリースクール生。小学2年生～5年生までの6名。
場所	かわちラボ	かわちラボ		かわちラボ	かわちラボ			かわちラボ	かわちラボ			かわちラボ	かわちラボ
参加者	駄菓子屋に興味のある小中高校生	駄菓子屋に興味のある小中高校生		フリースクール生および一般公募で集まった幼小中学生（15名）	地域の子どもたち（67名）及び近隣住民			駄菓子屋に興味のある小学生	駄菓子屋に興味のある小学生			駄菓子屋に興味のある小学生	駄菓子屋に興味のある小学生
実施内容	お店に関わってくださった皆さんへの感謝を伝えるためのプレゼントを作成した。具体的には「割引券に押すハンコの作成」「駄菓子詰め合わせのセッティング」「メッセージカードをデザイン制作およびメッセージ記入」を分担して実施。	第一期メンバーも参加し。引継ぎ式を行った。みんなで協力して駄菓子の陳列、値札貼り、レジ入力、看板付け替えなどを実施。		事前準備：フリースクールのカリキュラムとして、企画・準備を2人の小学生と実施。小5の子が賞品の相談でタカラトミーに電話したり、小2の子がスタッフとチラシを作ったり、参加費やルールについて検討したり、何度も話し合い準備した。当日：トーナメント形式で実施。賞品をめくり、真剣な戦いが繰り広げられた。	不登校児や発達障害を持った子どもたちなどは、にぎやかな場所が苦手なことが多いため、時間枠を2つ分けて、前半の第一部は「招待制」とし、後半の第二部は一般来場者に開放した。食べ物や飲み物の配布、当てものなどの遊びについて、一通りの参加費は無料とし、さらに追加で遊びたい場合は費用負担（原価以下の金券販売）をいただいた。			スライドを用いて駄菓子クイズをして駄菓子屋へのモチベーションづくり。店主のお仕事についてのイメージづくりと、どんなお店がいいのか考えてもらい、それぞれの意見出し、駄菓子屋の名前も考えた。	お金や仕入れについて学ぶ			駄菓子仕入れや売上に関するクイズ、仕入れたい駄菓子を考える、看板づくり	問屋さんでの仕入れ、駄菓子の陳列、値札貼り、レジ入力、看板付け替え
自己評価	各自が主体的に作業を進め、予定通りの作業を完了することができた。次回、新しい店長への引継ぎ式で集まって最後になるのが惜しいくらい、良いメンバーであると感じる。	第二期メンバーは2人が参加。購入した駄菓子をどうやって並べたら手に取ってもらいやすいかなど、考えながら並べる。陳列やタブレット入力など、準備の大変さも感じつつ、ワクワク感も感じてくれていたように思う。第一期メンバーとの交流もできたのが良かった。		主催の二人の子どもたちは準備にたくさんの時間をかけ、一生懸命頑張っていた。好きなことや興味のあることなら夢中になって頑張れるいい機会となった。たくさんの子が参加し真剣勝負の中、地域の子とフリースクール生の軽い交流も生まれた。	地域住民や子どもたちの支援者の方々にも参加をお声がけし、子どもと大人が遊びを通して交流しながら、かわちラボの活動を広く知っていただく機会としても活用できた。地域の高校から6名のボランティア参加もあり、今後も継続して連携していく大きなきっかけとなった。			それぞれに好きな駄菓子を発表したり、どんな駄菓子屋がいいか名前がいいか、色んな意見が出ていた。名前は「かってって」に決定。駄菓子屋で儲かったら何がしたいかを問いかけると「焼肉食べたい」「寿司食べたい」など希望を話し、少しモチベーションにつながった。	1名のみの参加。小2の男の子のため、仕入れなどは少し内容が難しかったようだが、スタッフと1対1のため彼のペースに合わせて話ができた。			どんな駄菓子が入気かなどの売上クイズなど行い、仕入れたい駄菓子について考える機会になった。看板作りも、ダンボール工作が得意な子が率先して作成してくれた。	仕入れシートを事前にスタッフが作成し、問屋さんでシートに駄菓子の値段や個数などを記入、計算しながらそれぞれ考えて仕入れることができた。好きな駄菓子を中心に仕入れる子、人気があるものを考えて仕入れる子、珍しいものを仕入れる子などさまざまに楽しめた。陳列や値札付けは根気がある作業だったが、それぞれのペースで実施できた。
反省点	特になし			当日の運営はスタッフが主導していた部分も大きかったので、少しずつ経験を重ねていく中で、子どもたちが運営できる比率を上げていきたい。	特になし			ゲーム機に気を取られる子が多く、雰囲気やモチベーション作りに苦労した。子どもたちが駄菓子屋をやりたいと思えるモチベーション作りができるようなスライドが必要だと思った。	特になし			モチベーションは子どもによって様々なのが難しいところ。	仕入れ・陳列して終わりではなく、これからどう発展していけるかを考えていく必要がある
記録写真													

タイトル	支援者BAR	おやごでゆったりランチタイムの会	福祉BAR	駄菓子屋 作りませんか？（第3期・第5回）	駄菓子屋 作りませんか？（第3期・第6回）	市障がい福祉センターが取材する「おやとも保護者会」での登壇	保育BAR	教育BAR	教育BAR	おすそ分け会	保護者座談会	フリースクールにおける地域の方々との連携
日時	2024年12月21日（土）	2024年12月22日（日）・午前11時 および午後1時開始の2部制	2025年1月11日（土）	2025年1月22日（水）	2025年1月27日（月）	2025年2月13日（木）	2025年2月15日（土）	2025年2月28日（金）	2025年3月29日（土）	毎月第三水曜日の19～20時半（9～3月）	毎月第二土曜日の10～12時（11～3月）	6～3月
概要	別紙ニュースレター参照	お子さんがいるご家庭を招待し、フランス料理のフルコースを提供した。貧困世帯などにお越しいただくため、あえて一般募集は行わずに、市役所子ども子育て課の協力も得ながら参加世帯を募った。 なお、LFAによる支援金事業として実施。	別紙ニュースレター参照	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 第3期メンバーは、フリースクール生。小学2年生～5年生までの6名。	【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング 第3期メンバーは、フリースクール生。小学2年生～5年生までの6名。	市立障がい者福祉センターが主催する保護者会。かわちラボスタッフが、子どもの居場所事業者代表として講演を行った。	別紙ニュースレター参照	別紙ニュースレター参照	別紙ニュースレター参照	食品や日用品等を、各自必要なものを必要だけ持ち帰っていただく。「子どもがいるご家庭」が対象で、事前申し込み不要。少しでも気軽にお越しいただくために、個人情報収集しない。 子ども子育て課および社協から要支援世帯に直接チラシを配布していただく方法で告知。敢えて、SNS等での告知はしない（スティグマ対策）。	学校への行き渋りがある、もしくは行かない選択をした子どもがいる保護者対象の座談会。進捗は、約35年間子どもや保護者、そして子どもに関わる仕事をしている人への支援をしてきた専門家（公認心理師・臨床発達心理士）が担当。 SNS等で広く告知を行う。	別紙報告書参照
場所		かわちラボ		かわちラボ	善野菓子店 かわちラボ	市立障がい者福祉センターキタバあかみね				かわちラボ	かわちラボ	
参加者		2世帯（各部1世帯）		駄菓子屋に興味のある小学生	駄菓子屋に興味のある小学生	市内在住の子どもに発達の悩みがある保護者（10名）				実績：のべ17世帯（全7回実施）	実績：のべ16世帯（全5回実施）	
実施内容		かわちラボの隣で営業されているカフェ（別経営）の調理師さんによる調理。各部1時間以上かけてゆっくりと家族水入らずのランチタイムを楽しんでいた。		現在の駄菓子店の売り上げ状況、売り上げアップのためにできる工夫や仕入れた駄菓子について話し合った	駄菓子店の仕入れ、陳列	行きしぶりや不登校についてをテーマにした講演会。かわちラボの活動内容や子どもたちの変化の様子などについて説明し、意見交換も行った。				主にクロネコサンタ便による寄付でいただいた物品を配布した。 また、LFAによる支援金事業の一環として、非常食の配布も行った。	お越しいただいた方の状況や人数に応じて話をするテーマを設定。「子どもの変化・成長」や「今、気になっていること」「嬉しかったこと」など、子どもの姿や自分の思いに焦点を当て、気軽に会話をしながら、保護者の悩みに寄り添った。 （テーマ：睡眠時間の話、性の話、親子関係について、子どもを信じるとは、自己肯定感を育む関わりについて 等）	
自己評価		参加いただいたご家族には「こんなにおいしい料理をいただけるとは」と大変喜んでいただけた。募集に際して、市役所子ども子育て課にご尽力いただき、困難世帯と繋がっていくための行政の連携という面でも、非常に大きな一歩であると感じた。調理師の方のご尽力により、かわちラボの狭いキッチンでも本格的なコース料理が提供できるよう段取りをしてくださった。		実際の駄菓子店の状況を確認しにいくなど、積極的に参加してくれた様子があり、次回仕入れへのモチベーションにつながった。	仕入れに参加するのがはじめての子もいたが、計算しながらそれぞれ考えて仕入れ、陳列した。	悩みを抱える保護者の状況を知ることが出来た。また、かわちラボの活動内容についても知っていただくことが出来た。今後も行政機関との連携を強化していきたい。				少しずつ利用者が増えてきているので、今後は、寄付の受け入れについても積極的に呼び掛けしていく必要がある。	参加者の子どもの年齢が様々なことから、少し先のことをイメージできたり、反対に「あの頃に比べると、我が子も変化成長した」と感じられることや、同じような悩みを持っている保護者と出会えて良かった、色々な視点から子どもを見ようと思えるようになったという感想が多かった。情報共有できる、安心安全な場があることが、保護者の気持ちを整えること（親子関係を整えること）になり、子どもが安心して次の段階へと進むことに繋がると考えている。	
反省点		特になし		特になし	仕入れで疲れて陳列までできなかった子もいるため、今後少しずつ陳列していく。	特になし				特になし	SNS等で情報発信することで徐々に周知されてきているが、更に周知の工夫が必要だと感じる。また、父親が参加しやすい場作りも考えたい。	
記録写真												